

26 繰り返し転倒例の分析

病院 岡田真明 北村昭子 関口亭 篠崎菜穂子 浅野美子 池田久美子

関口進 野月夕香理 君嶋伸明 三輪まり枝 前野しのぶ 白坂康俊

今回、「転倒作業部会」を設置し、医療安全を図る観点からその防止対策を講ずるために、事故報告書並びにヒヤリ・ハット報告書のデータベースから、重要事例として数例を選別しその統計的分析等を行い、転倒を引き起こす問題点を抽出した。同時に今後の分析に役立つようなヒヤリ・ハット報告書記載項目の見直しを行った。

重要事例決定の判断と調査項目

*繰り返し報告されている事例を4回以上と定め、重要事例とした。

*4回以上繰り返して報告されている15名に関する下記項目の調査結果(資料1)

●診断名 ●障害の程度 ●認知面 ●障害の発症日 ●入院日

●BI ●FIM ●長谷川式

4回以上繰り返し転倒している重要事例の検討

①入院日と事故(転倒)発生日との関係

- ・繰り返し転倒が報告されているケースは15名であったが、2名はデータないため13名の延べ転倒件数で分析した。4回以上の転倒報告者と入院から発生日の関係(CVAのみ)(資料2)
- ・繰り返し転倒が報告されているケース及び重要臓器と入院日から事故発生までの経過期間との因果関係については、入院後1カ月以内、特に入院2週間で多発している。

②転倒回数別の各調査項目の結果

- ・半側無視、失語症、知的機能低下を追加し調査を行った(資料3)
- ・2回転倒群と4回以上転倒群との比較では、転倒回数と調査項目であるBI、HDS-R、FIM運動、FIM認知の得点および半側無視、失語症、知的低下の有無とは明確な関係は見られなかった。

③転倒有り者と転倒なし者との比較

- ・運動面では転倒回数とBIの間には有意な相関関係があり、BIが低いほど、転倒回数が増える結果になった。
- ・また、BIとFIM運動の間には有意な相関関係があり、転倒回数とFIM運動も同様の結果になると推測された。

④転倒回数とMOA(資料4) やっと立ち上がれる程度の能力(MOAが10~15)の患者様に転倒が発生しやすいという結果が示された。

転倒に結びつく関連動作(資料5)

- ・車椅子関連の報告が79%と全体の2/3を占めている(W/Cーベッド、トイレへのトランスファー、ブレーキの掛け忘れ、W/Cからのずり落ち等)。
- ・その他の件数が多いのは、事由の記載がなく結果のみの報告であり、今後の報告書記載に検討の余地があると思われる。

ヒヤリハット報告書改訂案(資料6)

- ・なるべく短時間に記入でき、今後の分析に役立つような項目を集約した。
- ・今回の分析を通して、必要な項目と必要ない項目を整理し改定案を作成した。

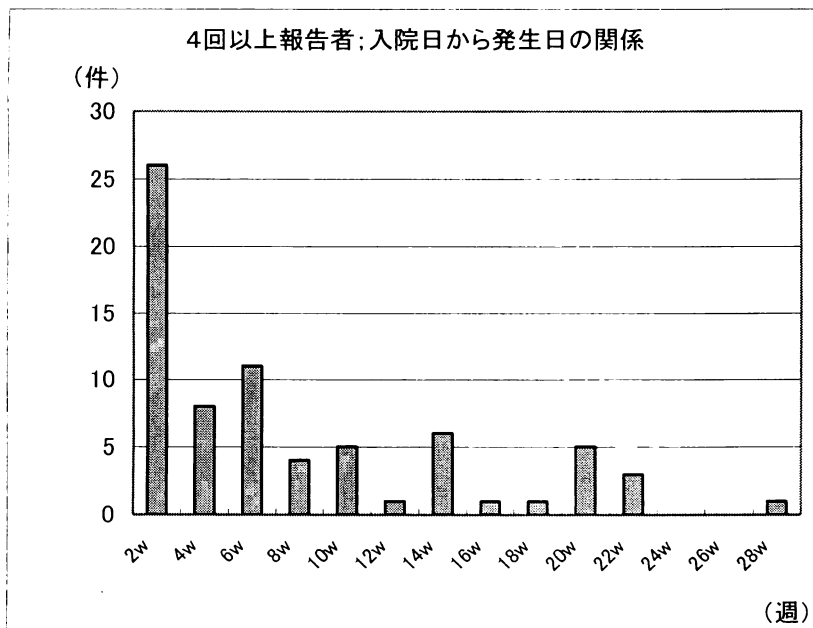
<資料1> 4回以上繰り返して報告されている15名に関する調査結果

年齢	診断名	麻痺	発症日	入院日	発生日	BI	HDS-R	FIM 合計	FIM 運動	FIM 認知	備考
	脳梗塞	右			2004/1/3						再発。 前回入院 時、混合性 失語(重 度)。
					2004/1/19						
					2004/1/30						
					2004/1/31						
					2004/2/25						
64	脳出血	左	2002/12/31	2003/2/24	2003/2/25	60	27	80	56	24	半側無視。 失行(構成・ 着衣)。知的・精神機 能障害
					2003/3/20						
					2003/3/20						
					2003/3/30	60	27	81	56	25	
					2003/3/30						
70	脳出血	左	2004/2/28	2004/4/16	2004/4/17	60	22	76	55	21	半側無視。 知的・精神 機能障害 (覚醒度の 障害)
					2004/4/18						
					2004/4/19						
					2004/5/9						
					2004/6/19	60	22	76	55	21	
46	クモ膜 下出血	左	2004/2/28	2004/5/10	2004/5/15						半側無視。 知的・精神 機能障害 (自発性低 下、落ち着 きのなさ)
					2004/5/27						
					2004/6/26	40		55	41	14	
					2004/8/23	70		81	66	15	
94	右大腿 骨大転 子部骨 折				2001/2/3						
					2001/2/3						
					2001/2/23						
					2001/2/23						
61	脳出血	右	2001/9/14	2002/3/27	2002/3/28	40		73	54	19	
					2002/3/28						
					2002/3/29						
					2002/3/29						
					2002/4/1						
					2002/4/1						
					2002/4/8						
					2002/4/17						

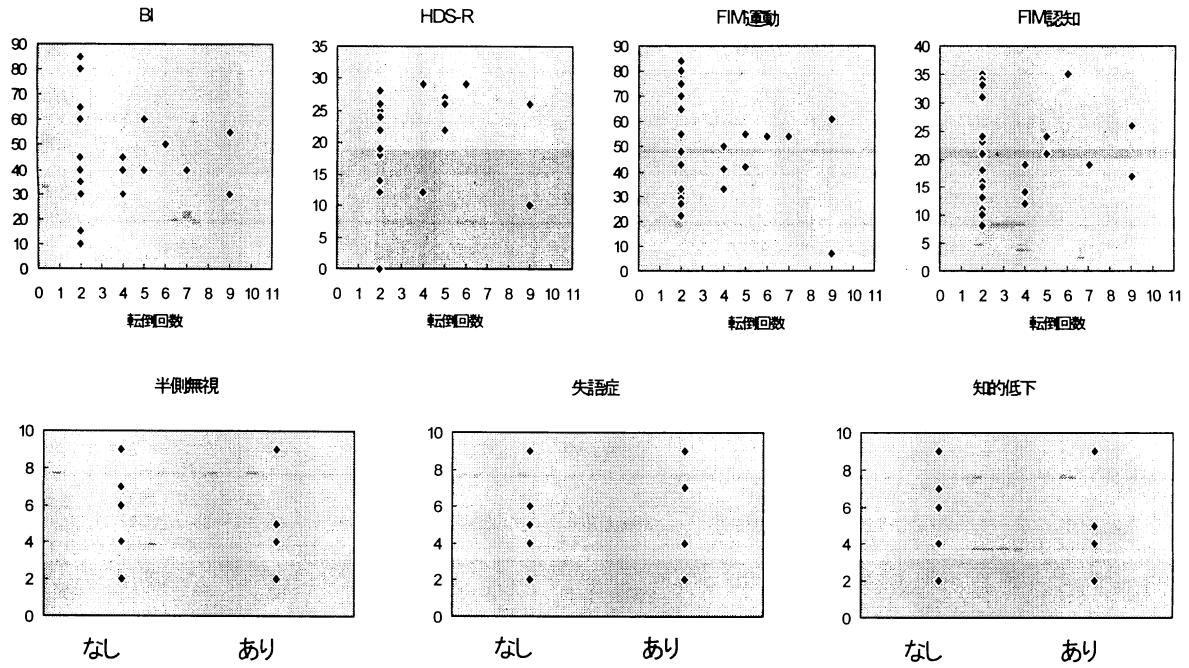
					2002/4/30	55		77	48	19	
23	頸髄損傷	四肢	2002/8/5	2003/2/4	2003/3/15	55	29	78	43	35	C7レベル。
					2003/3/15						
					2003/6/28	80		102	67	35	
					2003/7/6						
					2003/8/10						
74	脳出血	右	2002/12/2	2003/1/9	2003/1/10	50	29	89	54	35	
					2003/1/19						
					2003/1/19						
					2003/1/30						
					2003/2/27	55		102	67	35	
					2003/3/3	65		106	71	35	
16	脊髄梗塞	不全四肢	2003/4/26	2003/7/14	2003/7/25	60	30	92	57	35	C7不全。肥満。
					2003/8/13	70		103	68	35	
					2003/10/22						
					2003/12/9						
64	脳出血	右	2004/1/14	2004/2/17	2004/2/17	55	10	87	61	26	
					2004/2/17						
					2004/2/26						
					2004/3/22	65		95	69	26	
					2004/3/22						
					2004/4/20	65		95	69	26	
					2004/5/12						
					2004/5/15						
					2004/5/20	80		96	70	26	
67	脳梗塞	左	2002/11/25	2002/12/17	2002/12/27	30	26	54	7	17	資料4 半側無視。 知的・精神 機能障害 (落ち着きの なさ、覚醒 度の障害)。
					2002/12/30						
					2002/12/31						
					2003/1/19						
					2003/1/29	30	29	55	38	17	
					2003/1/29						
					2003/2/3						
					2003/2/21						
					2003/3/4	30	27	63	43	20	
48	胸髄損傷	対	2003/6/21	2003/8/5	2003/11/28	35	19	72	37	35	Th1レベル。
					2003/12/14	60		90	55	35	

					2003/12/16						
					2003/12/24						
22	脳出血	両側	2000/6/6	2002/4/12	2002/5/1	45	29	69	50	19	運動失調 (協調運動 障害・平衡 障害)
					2002/5/1						
					2002/7/12	75	30	99	78	21	
					2002/7/18						
56	脳出血	左	2002/11/18	2003/1/17							半側無視、 精神機能障 害(落ち着き のなさ)
					2003/1/19	40	26	63	42	21	
					2003/1/19						
					2003/1/27						
					2003/3/23	50		75	53	22	
41	脳出血	左	2002/7/22	2002/9/6	2002/9/4	30	12	45	33	12	半側無視、 失行(着衣・ 構成)、知 的・精神機 能障害(自 発性低下)、 超皮質性失 語(重度)
					2002/11/11	50		68	52	16	
					2003/1/14	55		74	58	16	
					2003/1/14						

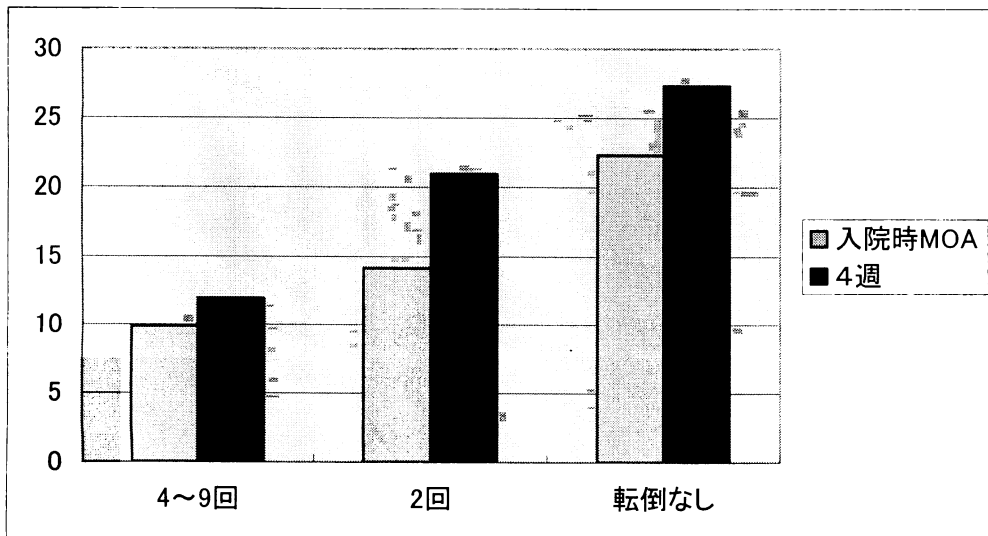
<資料2>

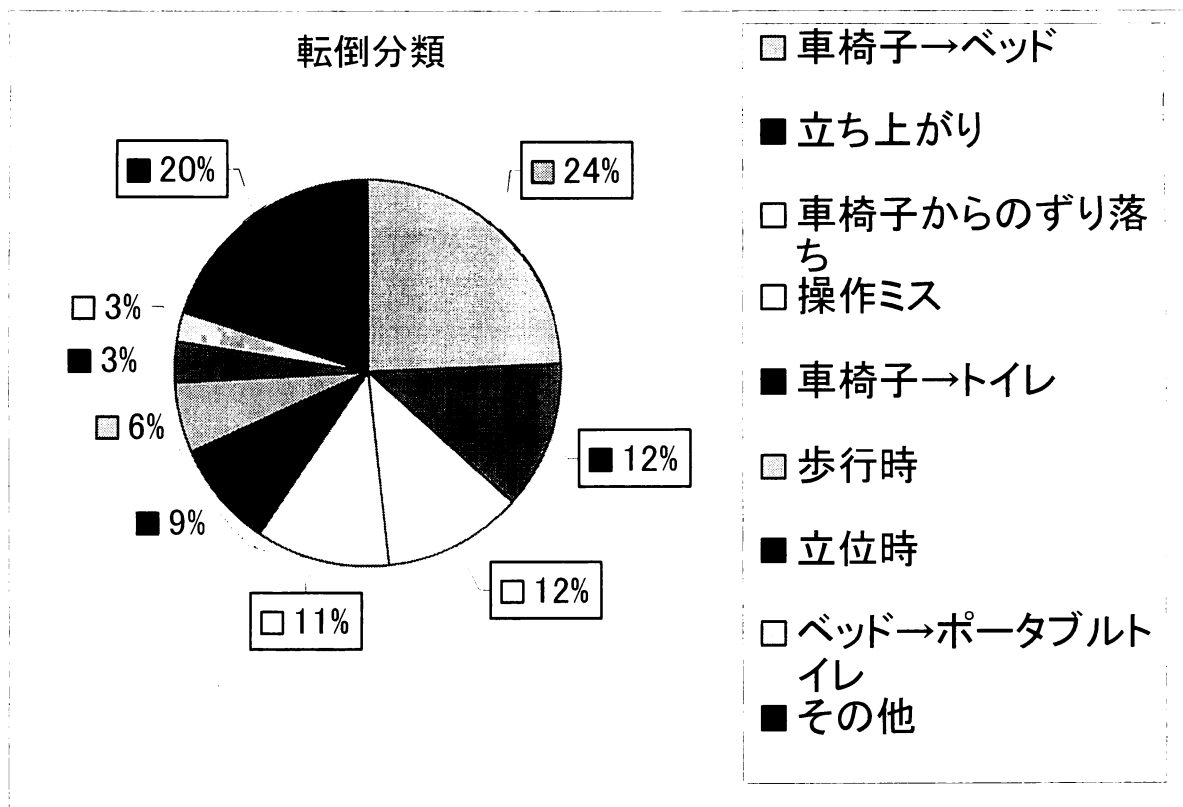


<資料3> 転倒回数別の各調査項目の結果



<資料4> 転倒回数とMOA





ヒヤリハット報告書 (改訂案)

御記入に当たり：次の事故、隠れた危険を拾うのが目的です。

I. 報告者 職種

医師、歯科医師、看護師、看護助手、薬剤師、栄養士、調理士、診療放射線技師、PTOT、ST、RS、歯科衛生士、視能訓練士、心理判定専門職、医相専門職、事務職員、その他 ()

II. 患者

氏名 _____ ID _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女

来院区分

外来、入院 (階病棟)、入所、その他 ()

診療科

リハ、神経内科、整形外科、内科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、精神科、その他 ()

診断名 1) _____ 2) _____ 3) _____

障害名 1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____

バーセルインデックス (BI) _____ 点 FIM motor _____ 点、cognitive _____ 点

III. 発生日時・場所

発生 20__年 __月 __日 _____時 _____分頃

場所

病室、病棟廊下、トイレ、食堂、浴室、階段、エレベーター、訓練室、外来診療室、屋外、その他 ()

IV. 内容：転倒の場合、どれに当てはまるか○を付けて下さい。

転倒 (車椅子～ベッド間の往復中、立ち上がり、車椅子からのずり落ち、車椅子の操作ミス、車椅子～トイレ間の往復中、立位時、歩行時、ベッド～ポータブルトイレ間、その他)

転落、けが、誤嚥・窒息、自傷、感染、誤操作、誤動作、無断離院、その他 ()

概要：(この記載は自由です。①ヒヤリハットの上の選択肢で見えない具体的場面②ご自身の感想、ご意見があれば、今後の予防の為、是非御記入下さい。)

有り難うございました。頂いた内容を元に、今後の予防策を検討して参ります。